

森忠政の築城と手伝普請ー美濃金山城・津山城・伏見城・大坂城ー

滋賀県立大学名誉教授 中井 均

◆はじめに

- ・「一、我々あとめくれぐれいやにて候、此城ハかなめにて候間、たしかなるものを、秀吉様よりおかせられ候へと御申の事」(「森長可遺言状」) ⇒ 美濃金山城は要の城【織豊政権にとって極めて重要な城であった】
- ・豊臣大名から徳川大名へ ⇒ 様々な負担【軍役と普請】

◆美濃金山城の構造と築城年代

- ・永禄8年(1565)、織田信長は烏峰城を奪取 ⇒ 森可成を入れ置く【可成は金山城と改称する】
森氏(織田信長)の美濃支配の拠点となる
- ・現存する石垣を伴う城郭の築城年代 ⇒ 出土した瓦はコビキ B 手法で、瀬戸美濃製品は大窯第4段階(1590～1600年頃)【森可成、長可、乱丸(長定)時代とは考えられない】
- ・天正12年(1584)、小牧長久手合戦で森長可の戦死 ⇒ 忠政が森氏を継ぐ【現存する石垣遺構はこの忠政の時代に築かれた可能性が高い】
- ・慶長年間の画期 ⇒ 慶長3年(1598)の豊臣秀吉の死去【政情不安から各地の城郭で改修がおこなわれる】
- ・慶長5年(1600)2月に森忠政は信濃海津へ転封 ⇒ 金山城には城主が配置されず【犬山城主石川光吉に与えられる】
金山越 ⇒ 金山城の用材が犬山へ持ち運ばれる【金山城の破却】
- ・金山城の構造 ⇒ 石垣・瓦・礎石建物という3つの要素から構成される城郭【典型的な織豊系城郭】
主郭、東Ⅰ～Ⅴ郭、左近屋敷(東Ⅵ郭)、南Ⅰ郭(南腰曲輪、西腰曲輪)、南Ⅱ郭、西Ⅰ～Ⅱ郭、出丸(西Ⅲ郭)、北Ⅰ～Ⅱ郭の山城部分と北山麓の米蔵跡(居館)から構成される山城
⇒ 大半の曲輪は石垣によって構築され、瓦葺礎石建物が配置されていた
主郭の発掘調査 ⇒
前期(築城から大窯第3段階後半以前)【森可成～長可時代か?】
中期【森忠政時代か?】
-Ⅰ期(大窯第3段階後半)
-Ⅱ期(1587年)【桐紋認可】

-Ⅲ期(1587 年以後)

後期(大窯第 4 段階以降)【廃城】

◆海津城

- ・天正 10 年(1582)、武田氏滅亡 ⇒ 織田信長より森長可に信濃川中島 4 郡が与えられる【海津城を居城とする】

本能寺の変により長可は信濃を放棄

- ・慶長 5 年(1600)に森忠政が 13 万 7 千 5 百石で入封 ⇒ 兄長可の居城であった海津城を居城とする【この段階で現在の構造に改修されたものか】

◆津山築城

- ・慶長 8 年(1603)、備前・美作の太守小早川秀秋が無嗣改易 ⇒ 森忠政が美作一国 18 万 6 千 5 百石へ加増転封【その居城として津山城が築かれる】
- ・慶長の築城ラッシュ ⇒ 関ヶ原合戦後の大名の移動に伴う新規築城が全国的におこなわれる【戦国時代最大の軍事的緊張】
- ・『正保城絵図』に記された「本丸 山城」⇒ 津山城は山城である【平山城の典型と紹介されるのは誤り】

江戸時代の認識では「山城」であった！

- ・津山城の構造 ⇒ 階段状に築かれた壮大な石垣【一二三段と呼ばれる(上段：本丸、中段：二の丸、下段：三の丸)】

天守【外観五重、内部地下 1 階、地上 5 階】、二重櫓 25 基、平櫓 25 基、多聞櫓 10 基【計 60 基もの櫓が構えられていた】

※広島城に次ぐ規模

本丸表鉄門、二の丸切手門などの巨大な櫓門が構えられていた

◆手伝普請とは

- ・永禄 6 年(1563)の織田信長の小牧山築城 ⇒ 石垣石材の墨書「佐久間」【割り普請を示すものか】

天正 4 年(1576)の安土城築城 ⇒ 石垣石材の墨書「惟住内九口」【丹羽長秀内の組を表すものか】

石垣普請は割り普請によって築かれた

- ・秀吉時代の諸城 ⇒ 大坂城(天正 11 年 1583)→聚楽第(天正 14 年：1586)→石垣山一夜城(天正 18 年：1590)→名護屋城(天正 19 年：1591)→伏見城(文禄元年：1592、森忠政参加)【石垣普請には大名が動員された】

石垣が全国に波及する要因となる ⇒ 秀吉の朝鮮出兵による倭城の築城【さらに全国の大名が石垣を積む画期となった】

- ・徳川家康、江戸幕府による天下普請 ⇒ 膳所城、彦根城、篠山城(森忠政参加)、亀山城、

長浜城、名古屋城、江戸城、大坂城(森忠政参加)【大名の大動員】

※大名の名誉【巨石を運ぶ】と重圧【毎年のような手伝い】

◆伏見城

- ・「(文禄3年：1594)正月より、秀吉公伏見小幡山の城被築、御普請諸将へ被仰付、忠政君二も一方御受取御普請被成也」(『森家先代実録』)

指月伏見城普請での手伝いを記したものか ⇒ 「於伏見惣構堀普請」(豊臣秀吉朱印状『上杉文書』)

「伏見御普請割之儀」、「伏見御普請衆」、「伏見御作事衆」(『駒井日記』)

- ・前期伏見城(指月城) ⇒ 前期(指月屋敷)、後期(指月城)

方形曲輪が並列する構造【ただし、最近の調査ではさらに拡大する可能性が大】

石垣【様々な石材を用いる、根切工法などの多様な技法によって築かれている】

- ・後期伏見城(伏見山伏見城) ⇒

伏見山に築かれた巨大城郭【本丸、二の丸(西の丸)、松の丸、名護屋丸、三の丸、治部少輔曲輪、右衛門尉曲輪】

さらに外郭として出丸、御花畑山荘、徳善丸、大蔵丸、弾正丸、山里丸などが構えられる

◆大坂城

- ・徳川幕府による大坂城の改修 ⇒ 「御内談の上、大坂の故墟を改められ、池(堀)の深さ、石垣の高さ旧時に増し、諸大名に丁場わり付」(『高山公実録』)【豊臣大坂城を超える荒田な大坂築城】

- ・元和5年(1619)7月、将軍秀忠の上洛 ⇒ 大坂城を預かっていた松平忠明が大和郡山へ転封【大坂城と城下町が幕府の直轄領となる】

- ・再建の手順 ⇒ 3期にわたる工事

第1期[西外堀・北外堀・東外堀] ⇒ 元和6年(1620)～【31ヶ国48大名】

第2期[内堀・天守台] ⇒ 寛永元年(1624)～【32ヶ国57大名】

第3期[南外堀] ⇒ 寛永5年(1628)～寛永6年(1629)【32ヶ国54大名】

- ・森忠政による手伝い普請 ⇒ 3期すべてに動員がかかる【第1期北外堀96間1尺、第2期内堀(東面)36間、第3期南外堀36間5尺1寸2分】

◆おわりに

- ・森忠政の時代 ⇒ 軍役だけではなく居城の築城、豊臣政権、江戸幕府の手伝い普請に動員された【石垣技術の進化】
- ・美濃金山城の石垣【野面積み】から大坂城の石垣【切込接】へ
様々な築城に動員された結果を見ることができる ⇒ それは決して森忠政だけではなく【全国の大名が経験した】
- ・石垣の進化はこうした手伝い普請による ⇒ 全国の大名が動員され学んだ結果

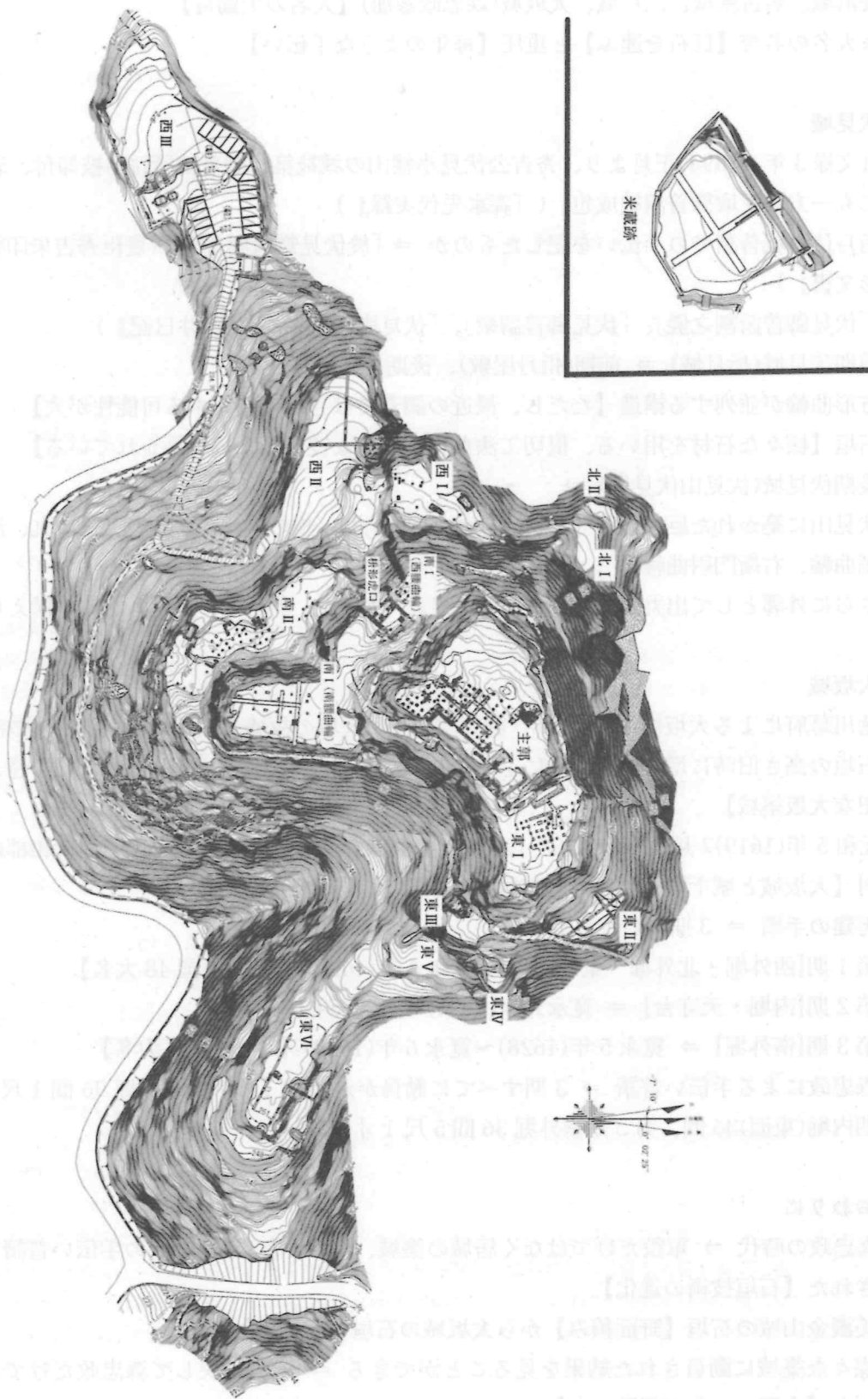


図1 美濃金山城跡曲輪平面図(『美濃金山城跡発掘調査報告書2』)

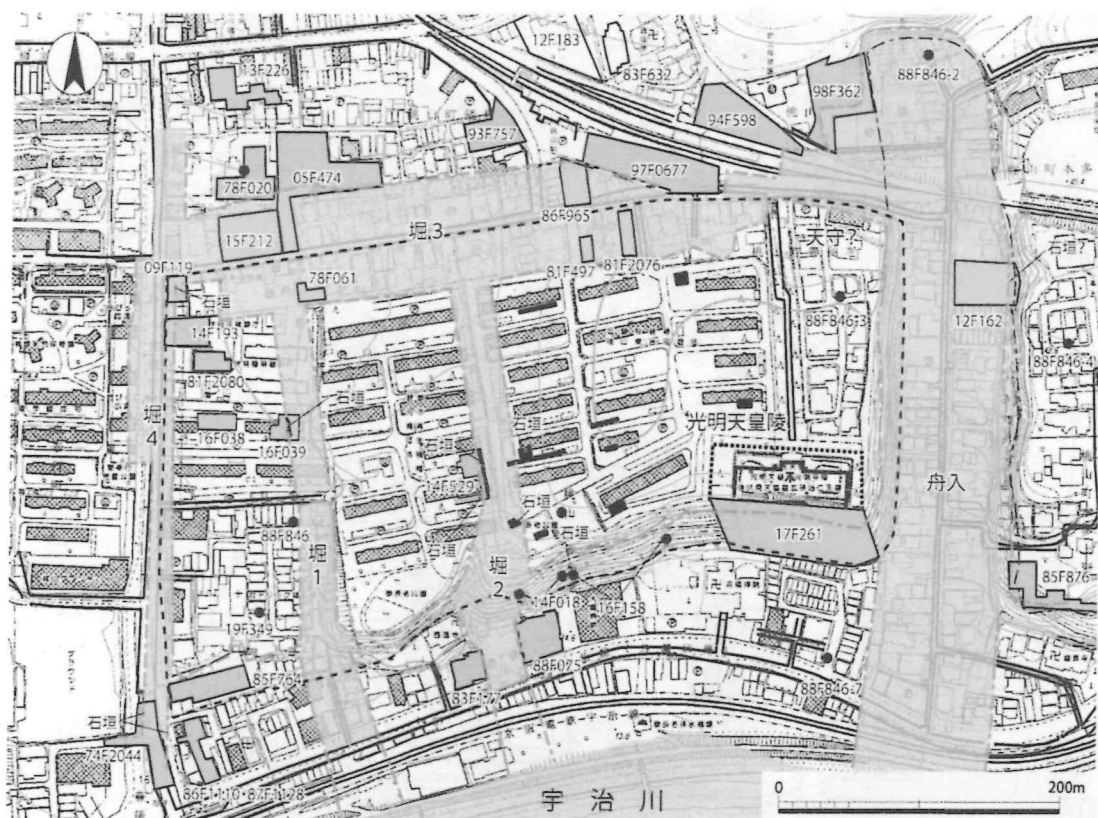


図2 前期伏見城復元図(『指月城跡・伏見城跡発掘調査総括報告書』)

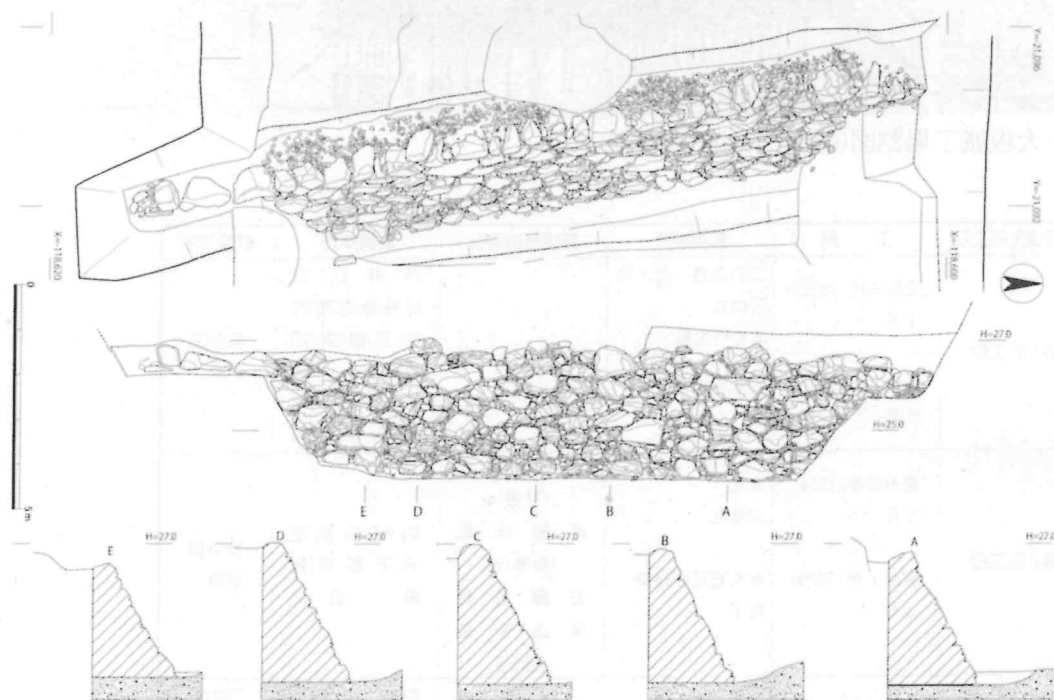


図3 前期伏見城跡 NO15-1 調査石垣平面・立面・断面図(『指月城跡・伏見城跡発掘調査総括報告書』)

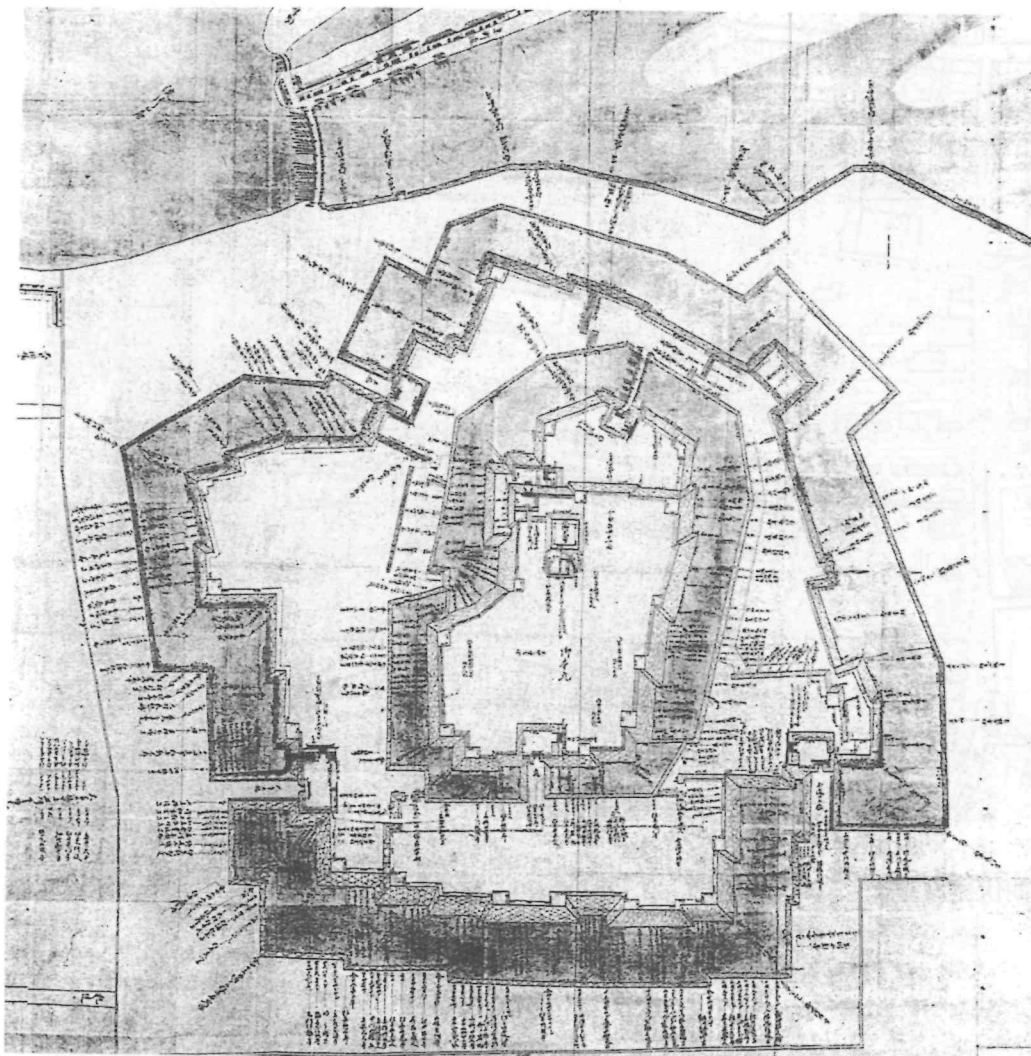


図4 大坂城丁場割図(国立国会図書館蔵)

大坂城修築工役	工 期	着手場所	普請総指図役	普請奉行	参加大名
第1回工役	元和6年(1620) 1月～	二の丸西・北・東 三の丸 北の外曲輪	藤 堂 高 虎	戸 田 氏 鉄 村田権右衛門 日下部宗好 渡 辺 勝 花 房 正 成 長谷川守知	31か国 48家
	元和8年(1622) 6月～	本丸天守台			
第2回工役	寛永元年(1624) 1月	本丸 山里丸	藤 堂 高 虎 (計画)	加々爪忠澄 日下部宗好 堀 直 之	32か国 57家
	寛永2年(1625) 2月	本丸石垣の修築 完了	戸 田 氏 鉄 (総奉行) 安 藤 重 長 青 山 幸 成 (検分)		
第3回工役	寛永5年(1628)	二の丸南 外濠	戸 田 氏 鉄	加々爪忠澄 堀 直 之	32か国 54家

図5 徳川幕府による大坂城の修築事業とその工程

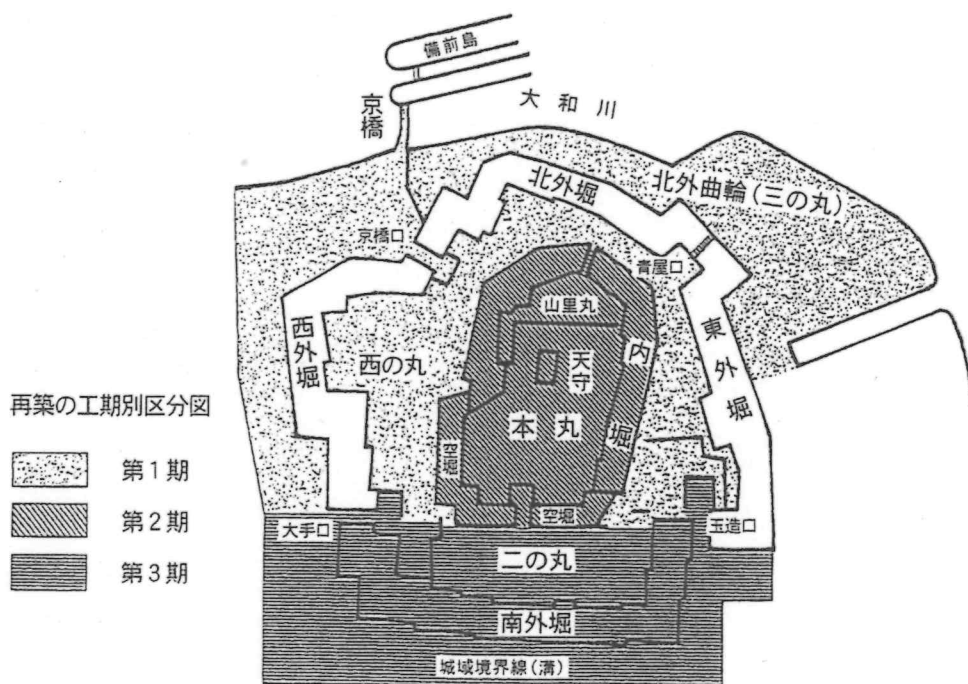


図6 大坂築城の工期別区分図



図7 徳川大坂城縄張り図(松岡利郎氏作図)

